

さわべス2018 文庫編

SAWAYA BEST

(17年12月7日さわや書店スタッフ選考)

順位	書名・著者・出版社	コメント
1位	図書館の魔女 第1巻～4巻	2018年、この一冊しか読めないとしても決して後悔はさせません！ 1800ページ、一気に読み！（フェザン店・長江）
	高田大介/講談社	
2位	でんでら国 上・下	見よ！これが「老人力」だ！ 一気に読み必至の痛快幕末老人エンターテイメントここに誕生す！（フェザン店・田口）
	平谷美樹/小学館	
3位	十六夜荘ノート	骨や墓、そして国。そういう所謂「側」の向こう側にある緩やかな繋がりの方にこそ、本当の豊かさがあるのかもしれない。（フェザン店・田口）
	古内一絵/中央公論新社	
4位	八月十五日に吹く風	この物語はきっと史実で、僕達が知らなければならぬ歴史。今の日本があるのは、あの米国人のお蔭だ。（フェザン店・長江）
	松岡圭祐/講談社	
5位	完本磨赤兒自伝 憂き世戯れて候ふ	アングラ劇団が活躍した1960年代の看板役者、磨さんの芝居人生舞遊伝。状況劇場と天上棧敷の乱闘事件は新聞に載りましたが、その内輪話は大笑い。（本店・大池）
	磨赤兒/中央公論新社	
6位	ある奴隷少女に起こった出来事	明らかな“悪”も、かつては“善”だった。今のあなたの“善”は、200年後も“善”だろうか？（フェザン店・長江）
	ハリエット・アン・ジェイコブズ 堀越ゆき/新潮社	
7位	爪痕	ノンストップな展開に、口が悪すぎるダーティーな主人公。癖になる刑事小説が、あらたに誕生しました！（外商部・栗澤）
	警視庁捜査一課刑事・小々森八郎 島崎佑貴/中央公論新社	
8位	酒談義 吉田健一/中央公論新社	お酒のエッセイは数多く出ていますが、横綱は吉田健一さん。文章に酔ってしまう。（本店・大池）
9位	インテリやくざ文さん	小さな違和感に壮大なるツッコミを爆発させる漫画。強烈にバカバカしく下品ながらも、たまに哀愁が漂う。（総務部・赤澤）
	和泉晴紀・裏モノJAPAN編集部/鉄人社	
10位	JR上野公園口 柳美里/河出書房新社	上野駅を舞台にしたこの小説を、東北人は読んでほしい。（本店大池）
【長江賞】	火怨 上・下 高橋克彦/講談社	さわや書店に来られて良かった。「火怨」と出会えたから。歴史は為政者が作る。そして、伝説は心が生む。（フェザン店・長江）
【コミック賞】	ふしぎの国のバード 1～4 佐々大河/KADOKAWA	レディ・トラベラーと共に、100年前の日本を「再発見」する旅に出よう。（フェザン店・武蔵）